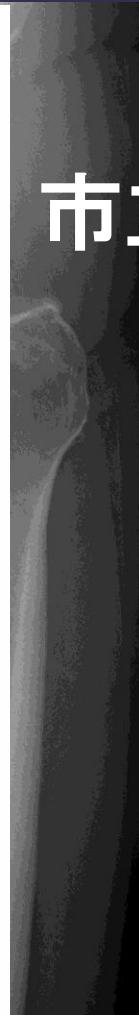


Alloclassic SL Long Stem

を使用した股関節再手術の3例

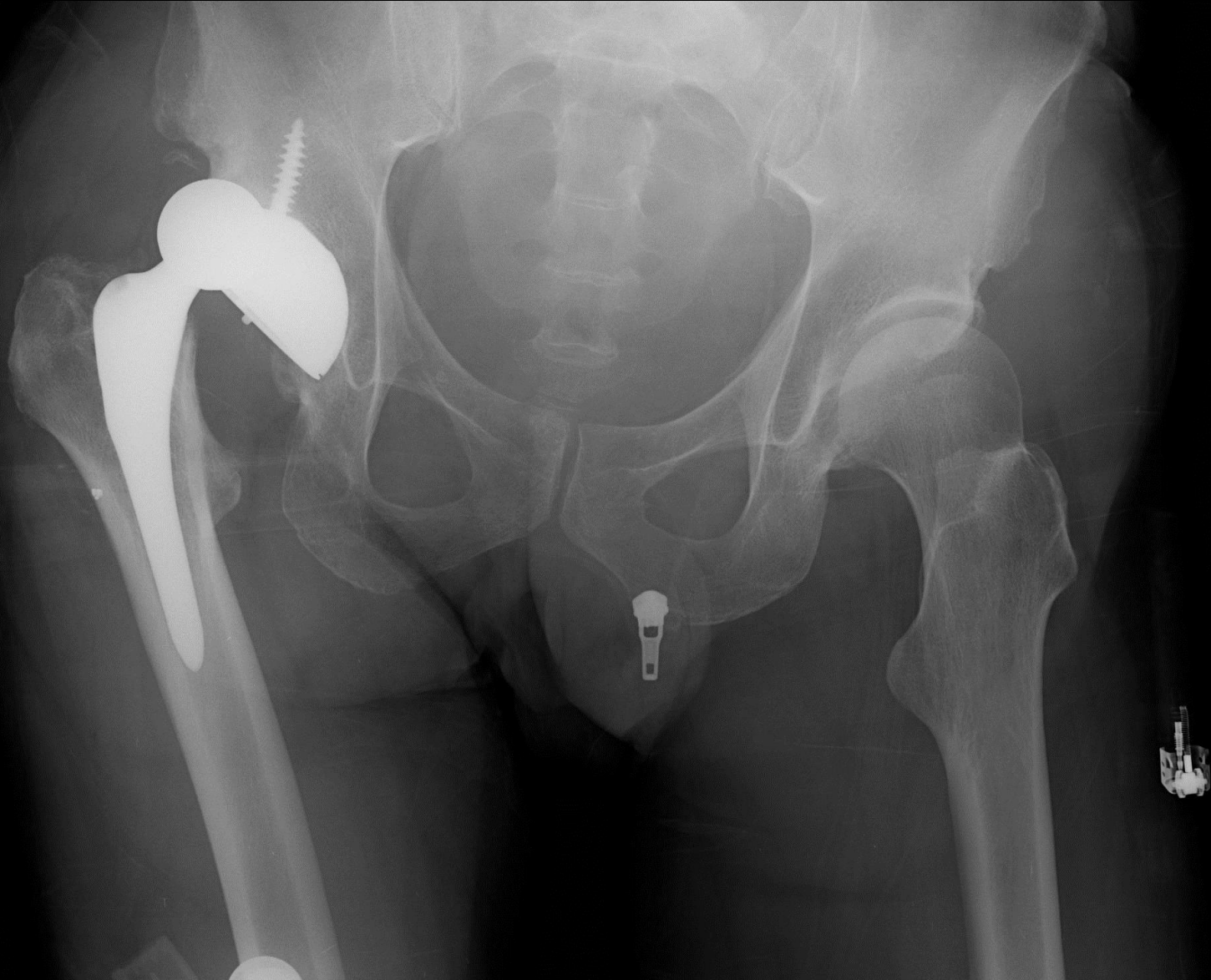


市立砺波総合病院
整形外科

江原
高木
山田
金澤
上野
下崎

栄文
泰孝
泰士
芳光
琢郎
研吾

＜症例 ①＞ 59歳 男性
3年前に特発性大腿骨頭壊死に対しTHA
術後、数回の後方脱臼



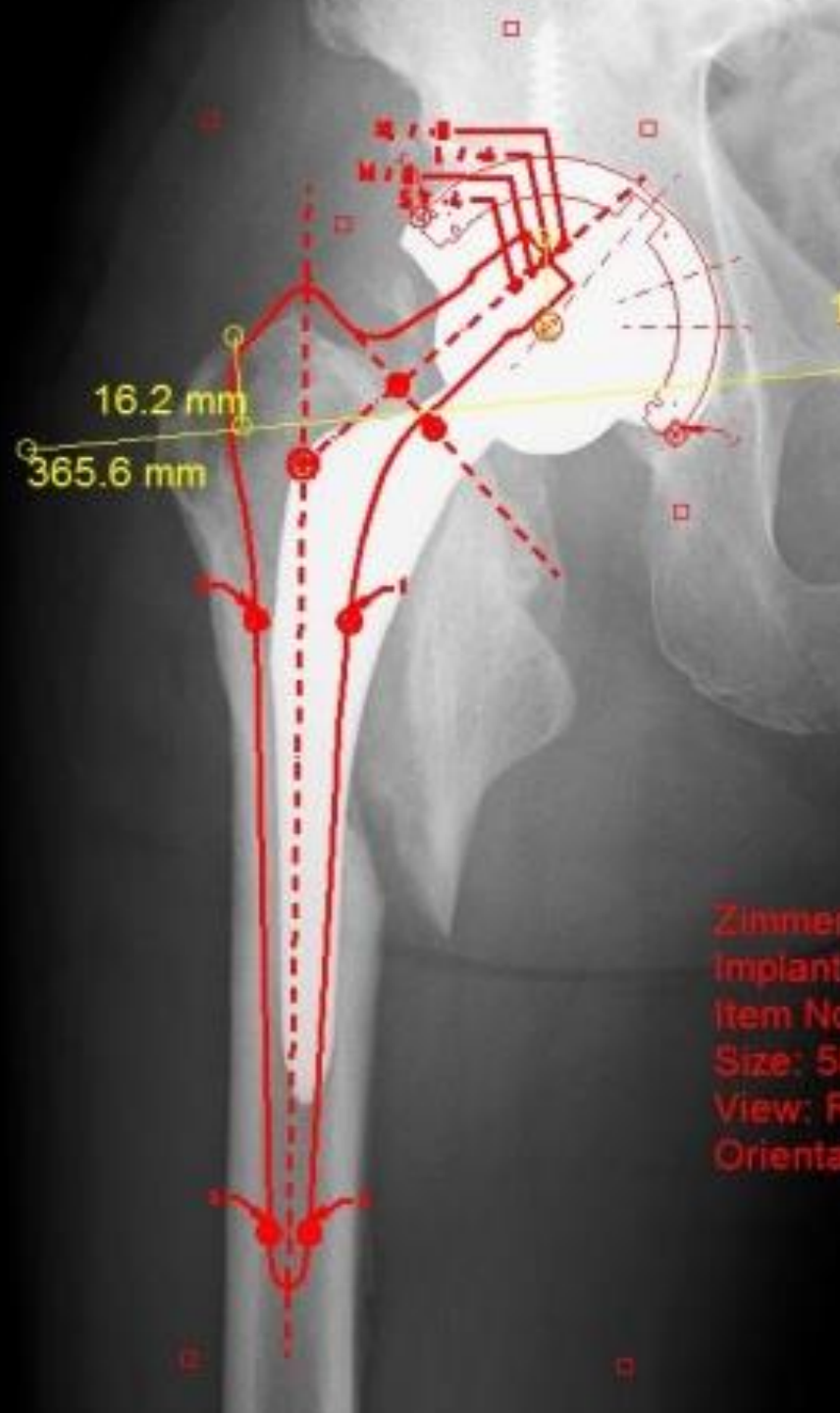


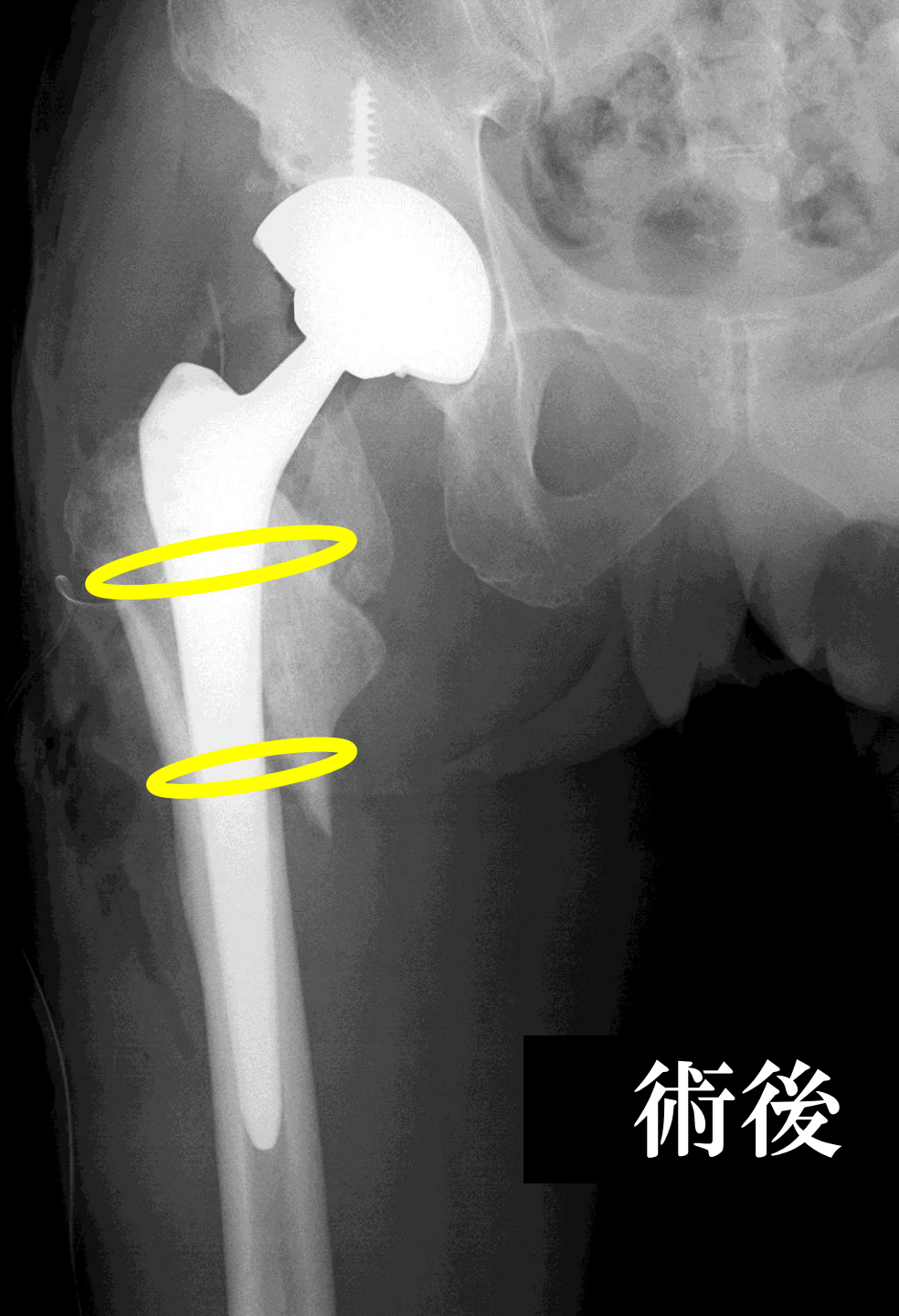
Vancouver分類 Type : B2

＜Stemの選択＞

遠位固定型
セメントレスシステム

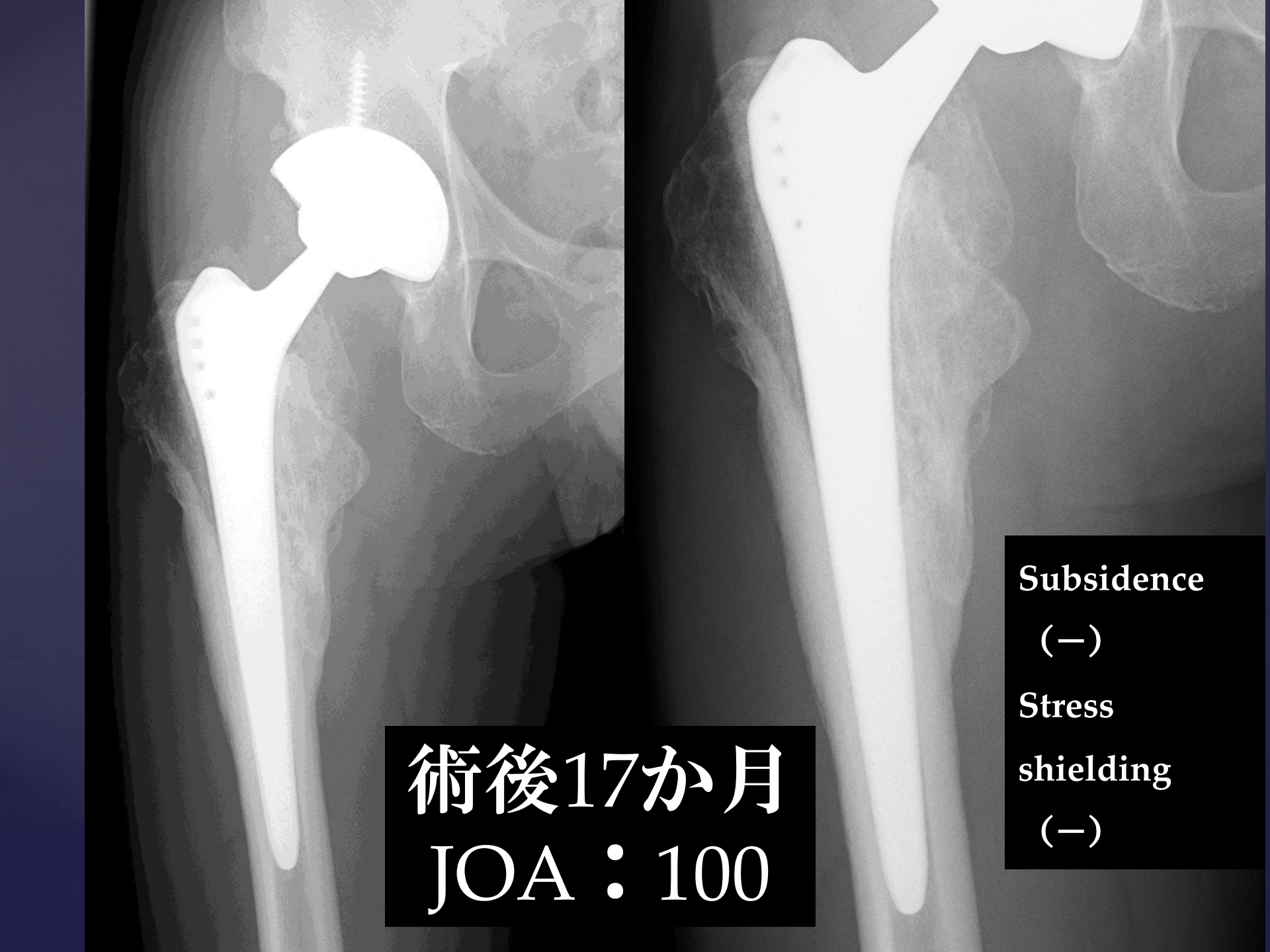
遠位での固定が充分
にできる長さ





術後





術後17か月
JOA : 100

Subsidence

(—)

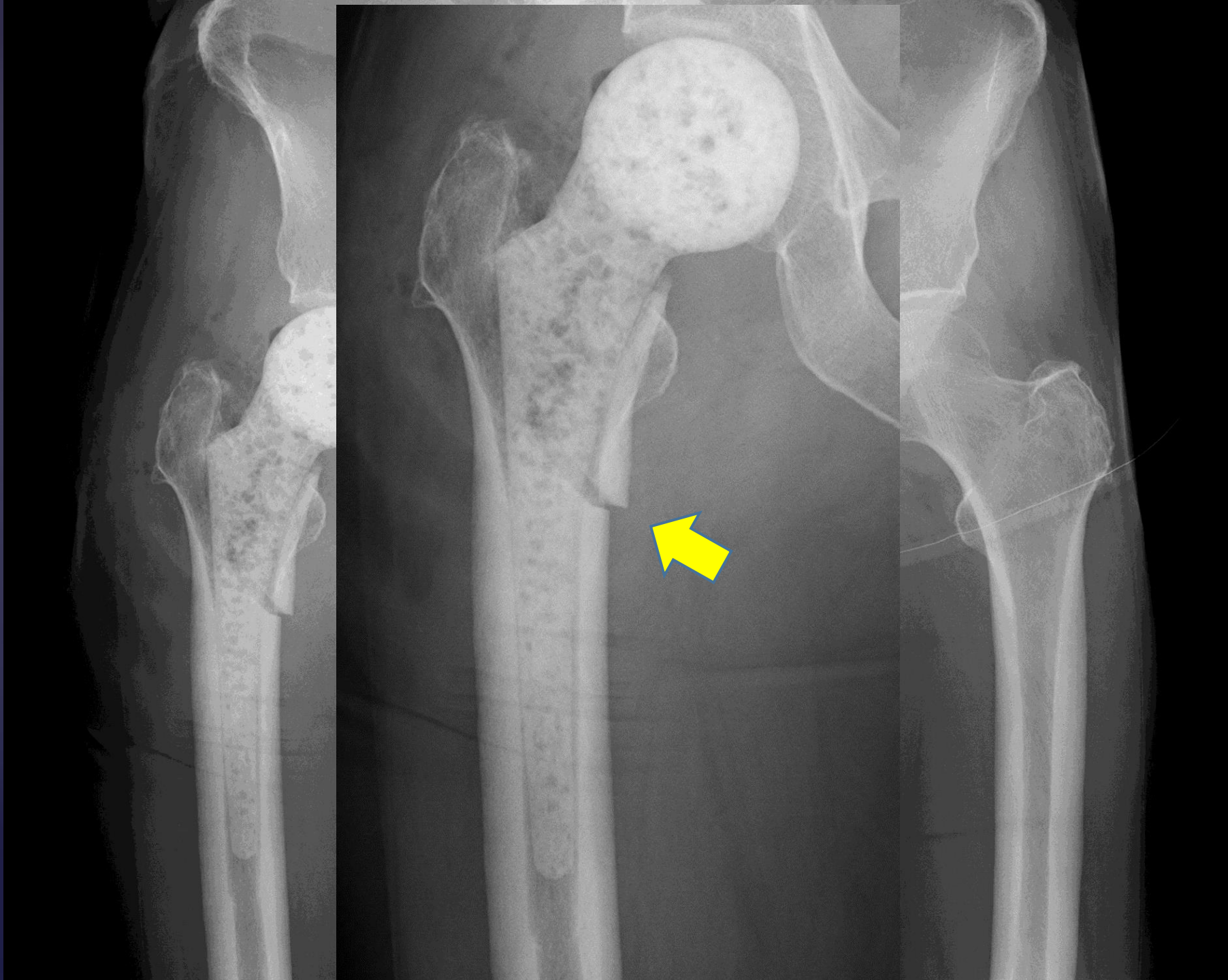
Stress

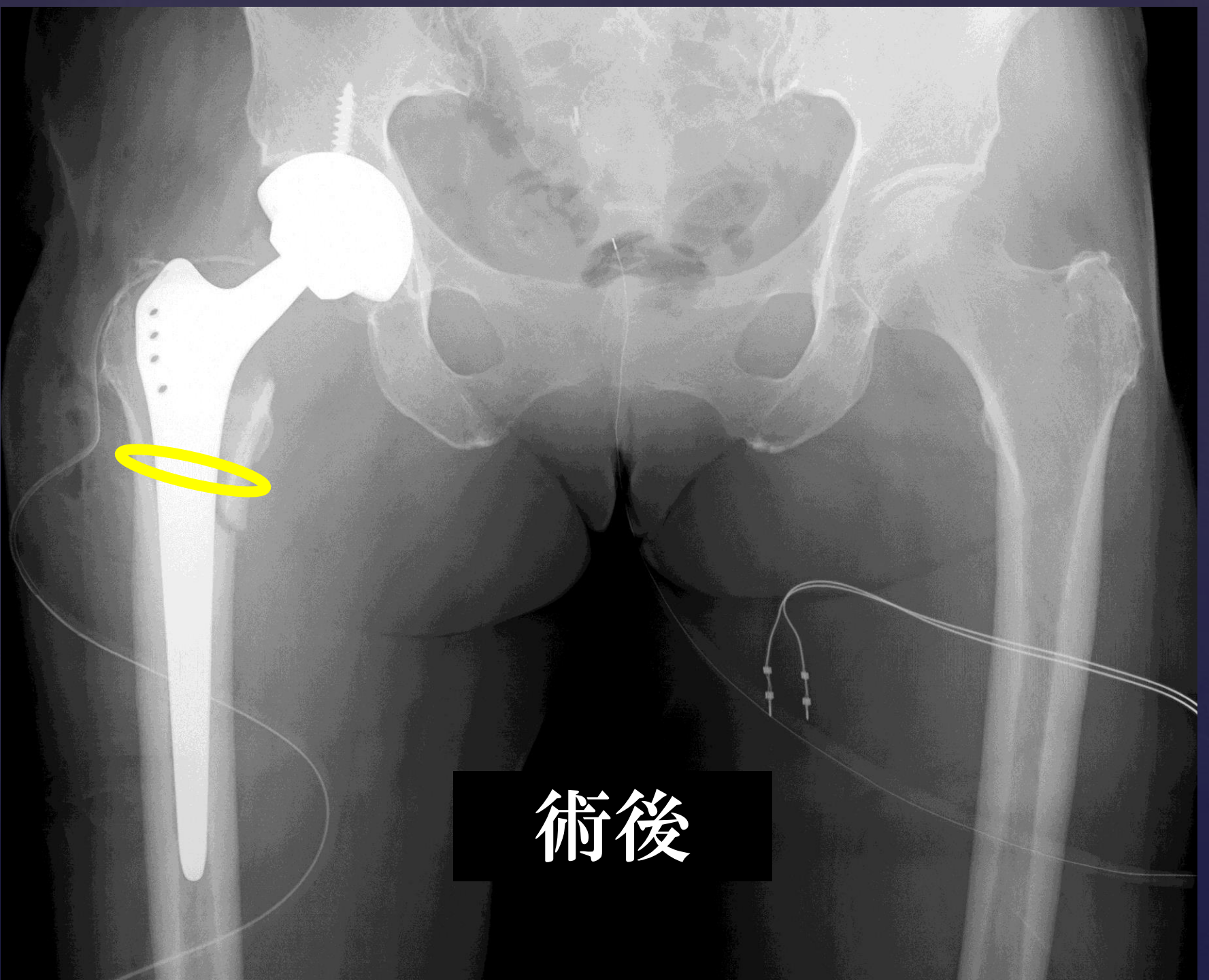
shielding

(—)

＜症例 ②＞ 70歳 女性
6か月前に大腿骨頸部骨折に対しBHA
術後感染 ⇒ 洗浄しても沈静化せず







術後



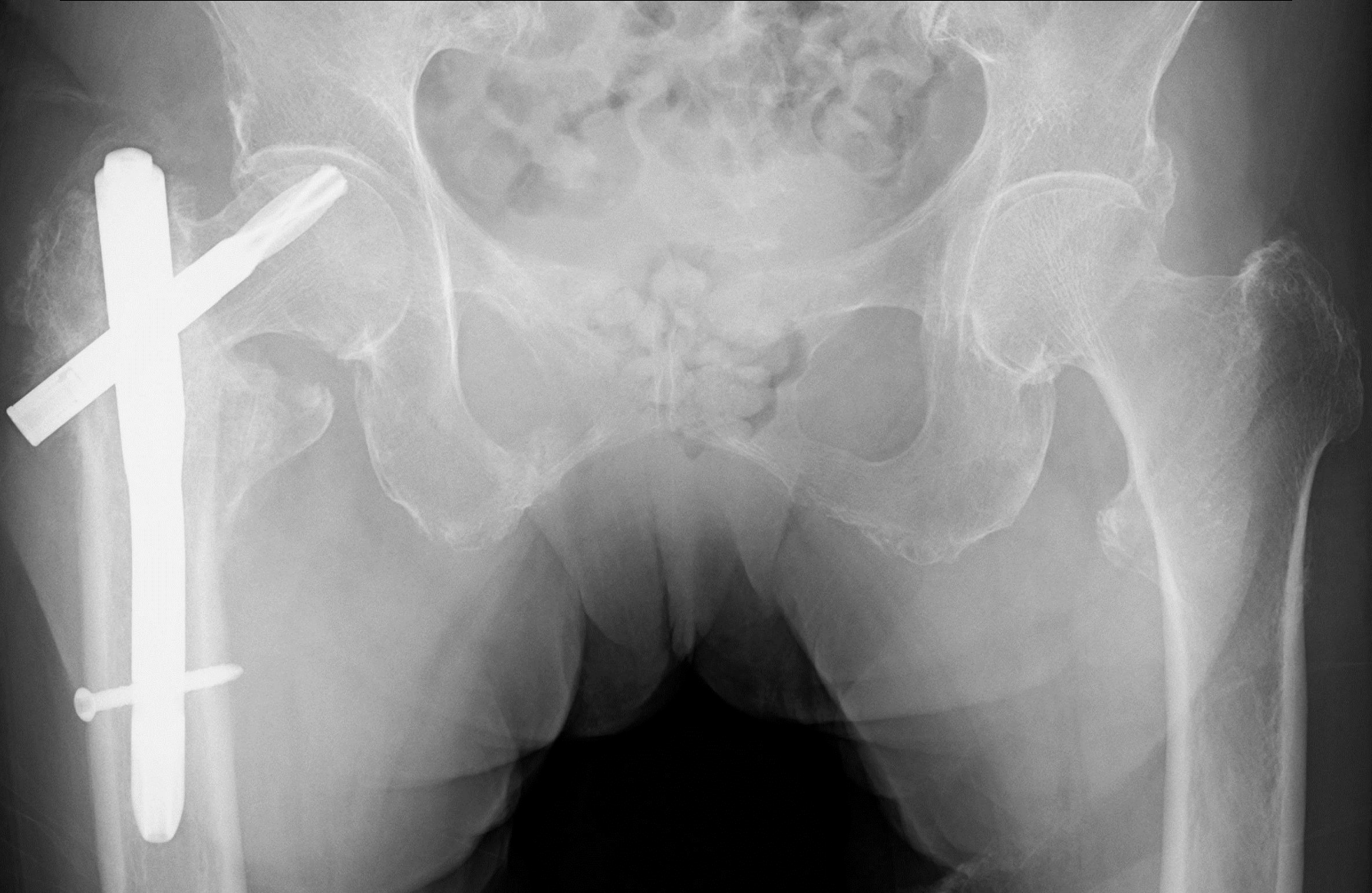
術後14か月
JOA : 91



Subsidence
(—)
Stress
shielding :
Grade 1

＜症例 ③＞ 87歳 女性
大腿骨転子部骨折に対し骨接合術

10週後： 転位 ⇒ ラグブレードが骨頭穿破



- Stove-pipe形状の髓腔
- 転子部が偽関節
(小転子側に骨欠損)
- 横止めScrewの穴の存在

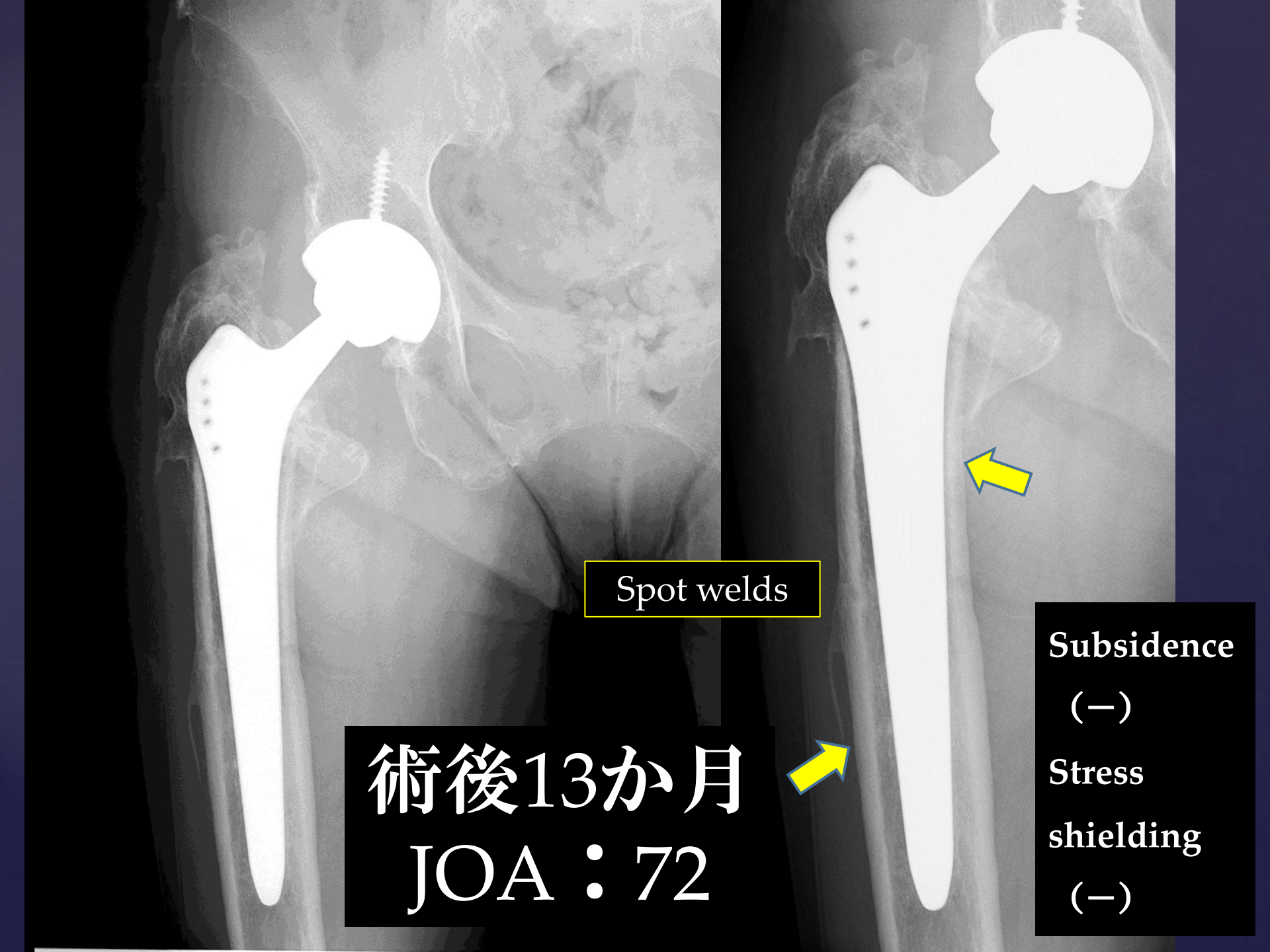


遠位固定型
セメントレスロングステム
を選択





術後



Spot welds

術後13か月
JOA : 72

Subsidence
(－)
Stress
shielding
(－)

システムの選択

＜再置換、大腿骨転子部骨折偽関節症例＞

✓ 骨脆弱性

✓ 骨欠損の程度
とその部位

✓ 術者の考え方

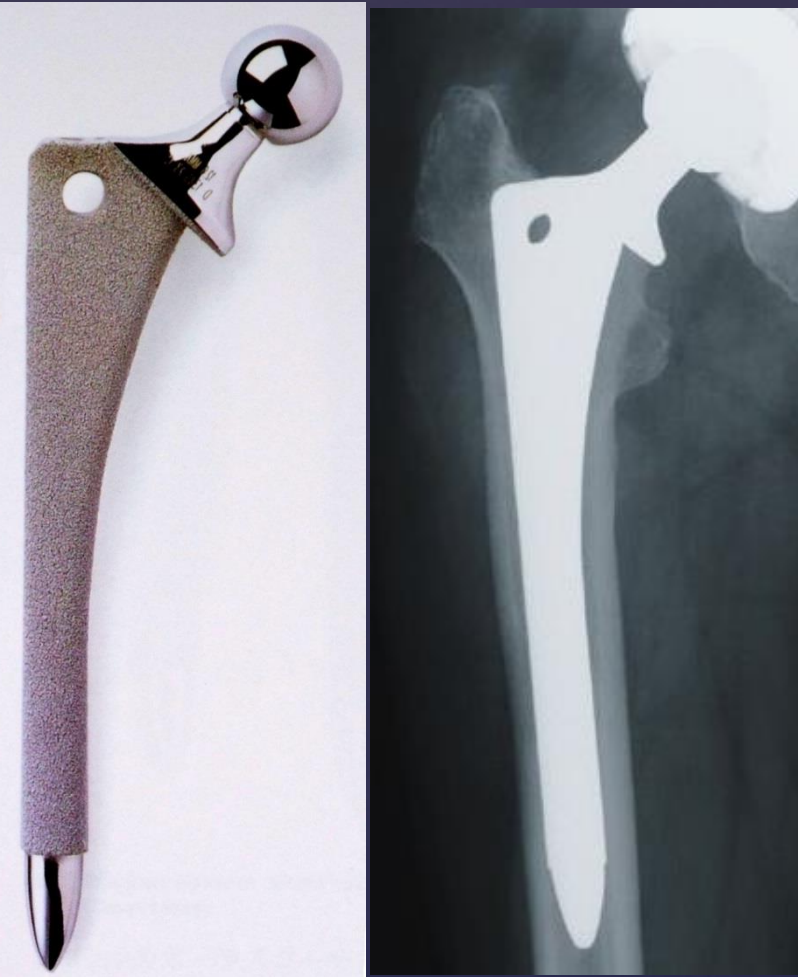
➤ セメントシステム

➤ セメントレスシステム

● 遠位固定型セメントレスシステム

● 横止め式セメントレスシステム

遠位固定型セメントレスシステム



遠位円筒型（髓腔占拠型）
フルポラスシステム
（AML型）

<問題点>

（藤田ら 日本人工関節学会誌：2008）

- ✓ ステム折損
- ✓ 抜去困難
- ✓ stress shielding

23%にstress shielding
（Enghら Clin Orthop：2003）

骨質不良例に使用すると高度なstress shieldingが起こりやすい
（名越ら 日本人工関節学会誌：2008）

Zweymuller型ステム



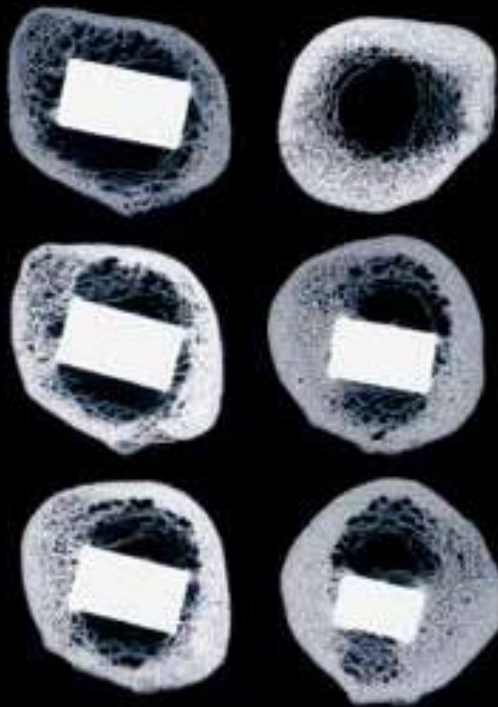
- 薄い長方形断面
- ダブルテーパー

高い初期固定・回旋安定性

- 4面フラット形状
 - 髓腔内の骨温存
 - 抜去しやすい
- チタン合金製

Stress shielding起こりにくい

Zweymuller型ステム



長方形の角が骨幹部の
楕円形状の髓腔にかみこむ

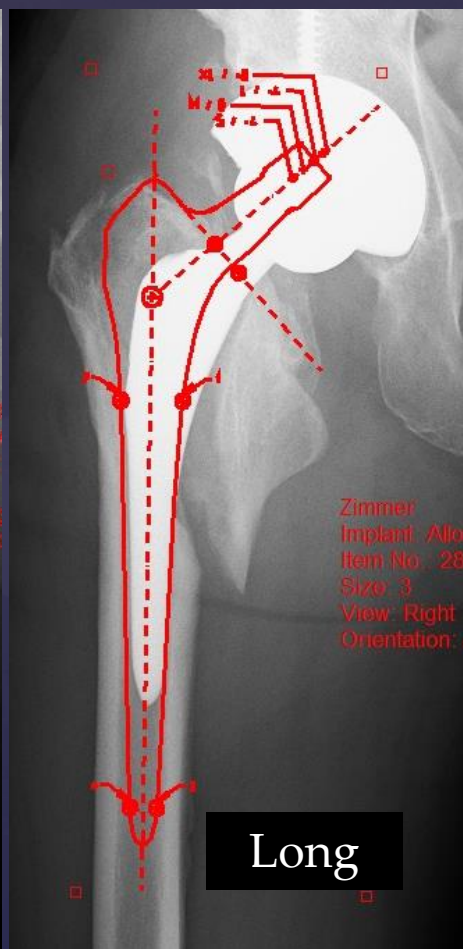
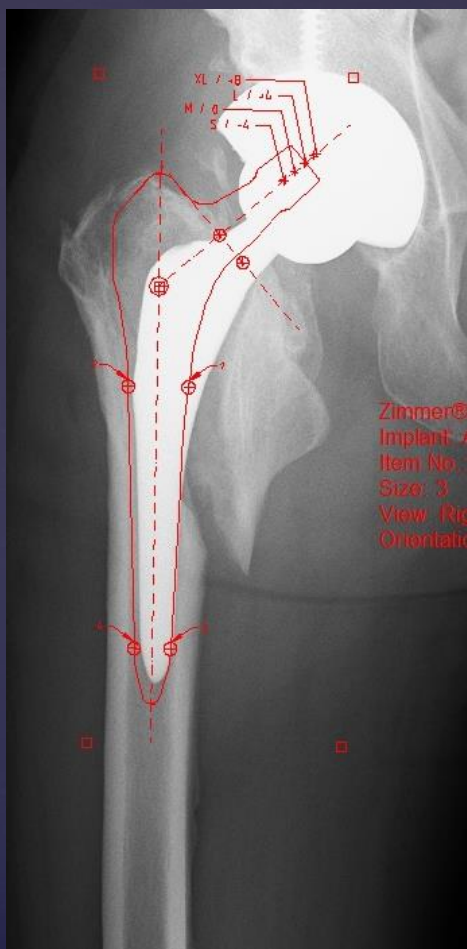


回旋固定
沈下への抵抗

脆弱骨でも高い初期固定力
(ラスピングや挿入時に骨折が生じにくい)

- | | | |
|---------------------|---------|-----------------------------------|
| • 320例 15年のFollow | 生存率99% | (Suckel : J Arthroplasty 2009) |
| • 124例 12.5年のFollow | 生存率100% | (Pieringer : J Arthroplasty 2006) |
| • 82例 8.1年のFollow | 生存率100% | (州鎌ら : Hip Joint 2009) |

Zweymuller型ロングステム



- ✓ 成績・使用経験についての報告なし
- ✓ 各サイズ 約3cm長い
- ✓ 長さ以外（形状・テーパー角・材質・表面加工など）の違いはない

まとめ

- Alloclassic SL Long Stemを使用した
3例の股関節再手術を経験した
- Alloclassic SL Long StemはRevision
症例や大腿骨転子部骨折偽関節例に
対し一つの選択肢になりうると考える